



(1) ねらい

180° より大きい角度の測り方を考える活動を通して、今まで学習した 180° までの角度の測り方を使えば求められることに気づき、180° より大きい角度を分度器を用いて測定することができる。

(2) 評価規準

分度器を用いて、180° より大きい角度を測定している。(知識・技能)

(3) 学習展開 (5/8)

過程	学習活動	指導・援助(留意点)
導入	<p>1 本時の学習内容に課題意識をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 分度器を使えば、180° までの角度は測ることができる。 問題の角度は 180° より大きいから、どうすればよいだろうか。 <p>2 学習課題を確認する。</p> <p>180° より大きい角度はどうやって測ればよいだろう。</p>	<p>【ICT活用の工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> 分度器の使い方の動画を児童に配付し、いつでも見られるようにする。
展開	<p>3 課題解決の見通しを立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 180° までは分かるので、2つに分ければ測れそうだ。 下にできた角の大きさを測って、360° から引けばよさそうだ。  <p>4 個人で追究する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 直線を伸ばして角を2つに分けると、上が 180° で、下が 40° になるので、合わせて 220° になる。 1周は 360° なので、そこから下の部分の角度の 140° を引くと、220° になる。 <p>5 全体で話し合い、課題を解決する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1つ目は、角を分けて考えている。 2つ目は、求めたい部分ではない方の角を測っている。 どちらの求め方でも、⑥の角度を求めることができる。 2つ目の方法を使うと、線を引かなくてもよし、1回角度を測るだけで計算して求めることができる。 今までに学習した 180° までの測り方を使えば、180° よりも大きい角度でも求めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 角の大きさが変えられる掲示物を使って、問題を提示する。 「何度ぐらいだろう。」と問いかけることで、角度の大きさの見当を付けることができるようにする。 <p>【ICT活用の工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の考えが書けた児童はノートを写真に撮り、協働学習支援ツールを用いて教師に送る。発表するときにそのノートを全員に配付し、手元で見ながら仲間の発表を聞くことができるようにする。 実物投影機を使い、説明する児童の手元を黒板に投影し、「分度器を使って 180° より大きい角を測る過程」を見ることができるようになる。 <ul style="list-style-type: none"> それぞれの考え方のよさを確認し、問題に合わせて考え方を使い分けていけるとよいことを確認する。
終末	<p>6 学習をまとめる。</p> <p>180° より大きな角度は、180° と残りの部分に分けたり、360° から小さい方の角度を引いたりして求めることができる。</p> <p>7 学習の確認テスト、練習問題に取り組む。</p> <p>8 本時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 初めは困ったけれど、〇〇さんの意見から考えることができた。 	<p>【ICT活用の工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> 協働学習支援ツールのテスト機能を使って小テストを行い、自動採点で確認する。